

## 保育園の自己評価・考察・課題

### ● 職員の自己評価から、考えること

2021年度、ヒッポ保育園の自己評価について

今年は3月に、全職員に、自己評価チェックリストを配り、それぞれ各自で、自分の保育を見直すようにしています。1年に1度、このような機会があることは、保育の質の向上には必須のことです。また、職員の自己評価と、保護者アンケートの結果を鑑みて、ヒッポ保育園としての、自己評価をし、それを、今後の課題へと、繋げていくことが大事であると考えます。

### ★保護者アンケートの結果より

保護者様が、ヒッポ保育園のことを好意的に感じてくださっていることを強く感じます。非常にありがたいことで、改めて保護者様の期待を裏切ってはいけないこと、期待にこたえなければならない、更には、期待以上のものを成果として残さなければならないことを改めて感じ、身の引き締まる思いで、このアンケートの結果を受け止めた次第です。

ただ、保護者さまからの、ご指摘、ご要望もありました。

それらのご意見は真摯に受け止め、改善、改良に努めたいと考えています。

1. HP のブログの中に動画を入れる。(季節の歌など)
2. 駐車場を増やしてほしい。(離れた場所でもよい)
3. 先生と名前が一致するように名札を付けて欲しい
4. 外部からの侵入者に対する取り組みをしてほしい(防犯対策)
5. 親参加の行事は、早く知らせて欲しい

### ★ 職員の自己評価チェックの結果より

職員の自己評価を終え、各職員との面談を実施しました。

以下のことは、毎年感じる事であり、永遠の課題でもあると思います。

保育士は、それぞれ、各自の保育感を持っています。特に保育歴の長い人は、確固たる保育感の下で、保育をしているので、組織の中の保育方針、保育目標、に添えずに悶々としながら、保育の現場に立っている職員がいます。

保育感が違う職員間同士の不協和音を、どのように調節し、改善していけばいいのか、とても、難しい問題だと思っています。こういう場合、考えが合わない、保育感が違う、という事で、どちらかが保育現場を変わっていくというのが、どこの施設でも発生していることだと思えますが、しかし、そのような解決方法では、トカゲのしっぽ切りのようなもので、

本質的な問題解決ではありません。ある意味、保育の質を問う以前の問題でもあるように思います。こういう状況下では、どうしても職員間の輪が回れないし、何よりも子供たちにとって良くない人的環境という事になります。それぞれが、反発し合うのではなく、互いにその考えを受け止め、理解しようと努力することが必要ではないでしょうか。

互いが、人として、大人として成長し合う機会ととらえることはできないものか？

保育士ひとりひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことは必至なことですが、個々の力量の向上にとどまらず、保育士集団としてのまとまりと、それに伴う保育力の高まりが必要となってきます。職員間のチームワークをよくしていくためにも、いろいろな形での話し合いの場を作る事、話し合える職員間の雰囲気作りをしていくことにも、心がける必要があると考えます。

## ● 保育園としての自己評価と、今後の課題

ここ数年コロナ禍の時代で、保育活動に、何らかの制約があり、今迄と同じように考えていくことが難しい現状です。このような社会現象の中で、保育園として質実ともに生き延びるためには、やはり、保育の質が大きく左右するのではないかと考えます。あえて保育園という場に残り、子供たちと関わる保育士の質は重大な要素です。そのためには、私達が、現状に甘えることなく、自己を厳しく見つめ、社会人として、保育人としても、切磋琢磨して、研鑽を積まなければなりません。そして、自分の保育感にとらわれるのではなく、今、目の前の子どもの現実をしっかりと見定めてその視点から、保育を考え、保育を展開していくことが必要であると考えます。

そして、子供だけではなく、その保護者とどのようにかかわっていくかということも、とても重要な問題です。今の若い保護者が、「子育てを知らない」「子供の成長・発達を、正しく見ることが出来ない」問題を、保育の現場から、どのように発信し、導いていけばいいのかを、考える必要があります。

保護者アンケートの中に、「子育ての相談にのって欲しい!」という、要望がありました。私たち、保育士は、保護者の子育てのよきアドバイザーでなければならないということは、自覚してはいるものの、上から目線のアドバイスではなく、保護者の視点にたって、保護者に寄り添った「支援」を保護者は、求めているのではないだろうか？と、改めて、自分自身を振り返る必要があります。

保育の質の向上や、子どもの成長への手助けはもちろんのこと、保護者や、さらには地域との連携、また子育て全般を考えて、どのような「支援」をしていくべきなのか？

私たち保育園、保育士は、幼児教育の見地からだけではなく、幼児福祉の面からも、「支援」という、その社会的役割をしっかりと認識しておくことも、私達に課せられた任務かもしれません。その為にも、以下のことを考えます。

- ① 保護者、地域との連携をどのように強めていくか？
- ② 忙しい就労条件下で、自己を研鑽すべく時間をどのように確保すればよいか？
  - 保育園外での研修会参加の保障
  - 保育園内での研修会、研修時間の確保
  - 研修後の保育実践の確立

#### 園長として

保育士ひとりひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことは大事であり、これは保育園の永遠の課題でもあります。が、個人の力量の向上にとどまらず、保育士集団としてのまとまりと、それに伴う保育力の高まりも、重要なことです。

職員間のチームワークをよくしていく為にも、色々な形での話し合いの場を作る事、話し合える職員間の雰囲気作りをしていくことが、必至です。

職員を育てていくことが、園長として課せられた重要な任務です。その為にも、園長自身が日々研鑽に努めなければなりません。